

Panasonic
BUSINESS

Panasonic
BUSINESS

PASSION. CONNECTED. AT PYEONGCHANG 2018
平昌 2018 冬季オリンピック納入事例集

SOLID SHINEはパナソニック株式会社の商標です。DLP、DLPメダリオンロゴはテキサス・インスツルメンツ社の登録商標です。
© 2018 Panasonic Corporation. All rights reserved.

このカタログの記載内容は2018年4月現在のものです。
CT18-J01PF-PC2018 Printed in Japan.



TM IOC.

平昌2018冬季オリンピックで 情熱の結晶に輝きをあたえる、 パナソニックのトータルソリューション。

平昌2018冬季オリンピックが、「Passion. Connected. (ひとつになった情熱)」をテーマに、2月9日から2月25日までの17日間にわたり、韓国の平昌郡を中心に開催されました。

開催初日、体感温度が氷点下10度前後となった厳しい寒さの中、開会式を支えたのがパナソニックの映像機器です。パナソニックは開閉会式向けに、曲面や凸凹面にも歪みのない映像を投写する30,000lmクラスの高輝度レーザープロジェクターを約80台納入。高輝度・高コントラストで動きの激しい映像もはっきりと映し出し、ダイナミックで幻想的なプロジェクションマッピングで観客と世界中の視聴者を魅了しました。

また、映像機器とともに音響機器も提供。さらに、パナソニックはチーム一丸となって、機材の設置や映像演出、システム運営、会場のオペレーション・メンテナンスを含めた映像ならびに音響、放送機器のトータルソリューションを提供し、大会の運営をサポートしました。

納入されたパナソニック製AV機器



業務用プロジェクター
総納入台数：約230台
(開閉会式に使用した約80台を含む)



プロ用ディスプレイ
約1,000台



放送・業務用映像システム
放送用スイッチャー 16台
放送用カメラ 約50台



プロ用音響システム
10会場



TM IOC.

【インタビュー】

スポーツを通じて世界平和を実現する

オリンピックが掲げるこの理念に賛同したパナソニックは、1988年のカルガリー冬季オリンピック以来、ワールドワイドオリンピックパートナーとして四半世紀にわたり大会をサポートしてきました。「Sharing the Passion」をスローガンとして、最先端の技術とソリューションで、オリンピックを通じて生まれる感動を世界中の人々と共有。スポーツを愛するすべての人の思いをひとつにすることで、世界中に感動をお届けしてきました。

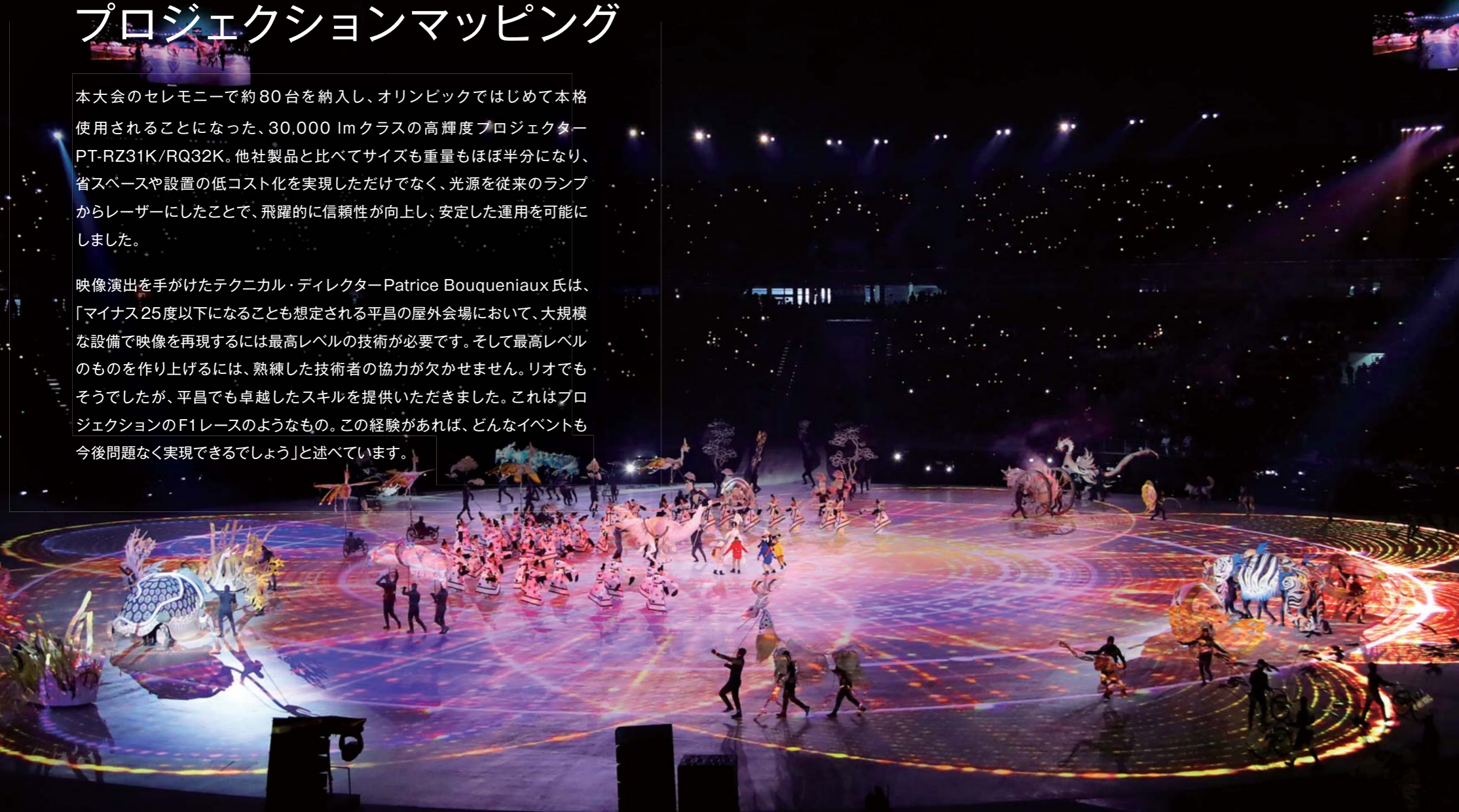
パナソニックは本大会のオープニングセレモニーでも、会場全体を美しく彩る演出を、高輝度プロジェクターで支えました。機器提供だけでなく、会場でのオペレーションやメンテナンスも行い、パナソニックの最先端技術とトータルソリューションでセレモニーをサポート。その他にもさまざまな会場に、LED大型ビジョンや大型音響装置RAMSA、臨場感を伝える放送用カメラなど、選手や観客を盛り上げるための機器を納入しました。

開会式翌日には国際オリンピック委員会のバッハ会長がインタビューで次のように述べています。「IOCとパナソニックとのパートナーシップは非常に強く、固い絆で結ばれています。パナソニックの技術は重要な役割を果たし、会場にいたお客様や世界中の視聴者を盛り上げました。パナソニックはA Better Life, A Better Worldの実現を目指しています。そしてIOCはスポーツを通じてA Better Life, A Better Worldの実現を目指しています。この意思や価値観が合うからこそ、一緒にオリンピックムーブメントを更に素晴らしい活躍、貢献へと導くことができると思います」
トーマス・バッハ氏(国際オリンピック委員会 会長)

セレモニーを彩る プロジェクションマッピング

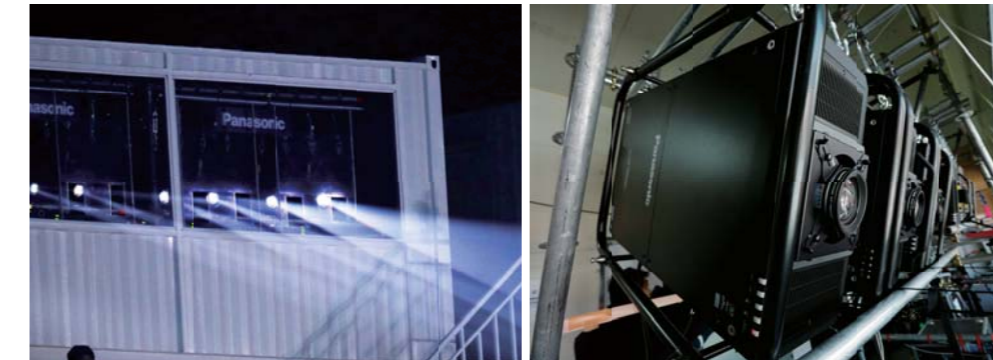
本大会のセレモニーで約80台を納入し、オリンピックではじめて本格使用されることになった、30,000 lmクラスの高輝度プロジェクターPT-RZ31K/RQ32K。他社製品と比べてサイズも重量もほぼ半分になり、省スペースや設置の低コスト化を実現しただけでなく、光源を従来のランプからレーザーにしたことで、飛躍的に信頼性が向上し、安定した運用を可能にしました。

映像演出を手がけたテクニカル・ディレクターPatrice Bouqueniaux氏は、「マイナス25度以下になることも想定される平昌の屋外会場において、大規模な設備で映像を再現するには最高レベルの技術が必要です。そして最高レベルのものを作り上げるには、熟練した技術者の協力が欠かせません。リオでもそうでしたが、平昌でも卓越したスキルを提供いただきました。これはプロジェクションのF1レースのようなもの。この経験があれば、どんなイベントも今後問題なく実現できるでしょう」と述べています。



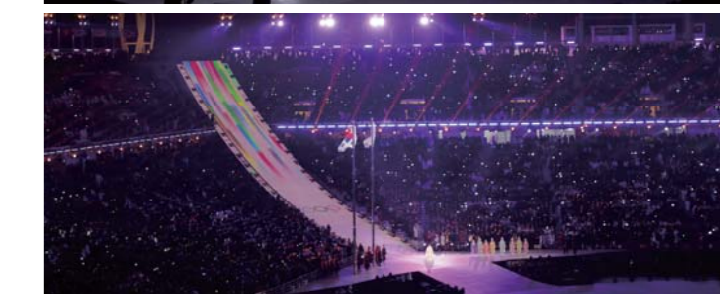
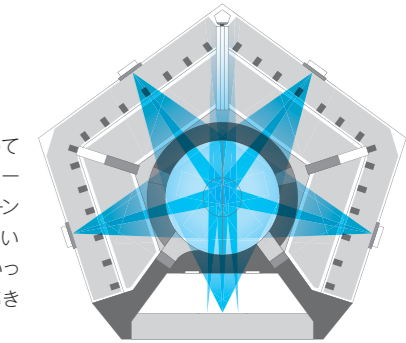
厳しい設置環境に対応する高信頼性

極寒の中で機器のダメージを防ぐため、スタジアム内に「キャビン」と呼ばれる小屋を設け、その中にプロジェクターを設置。温度管理を徹底し、設置や運用、保守プロセスの面でも式典や氷上の祭典をサポートしました。



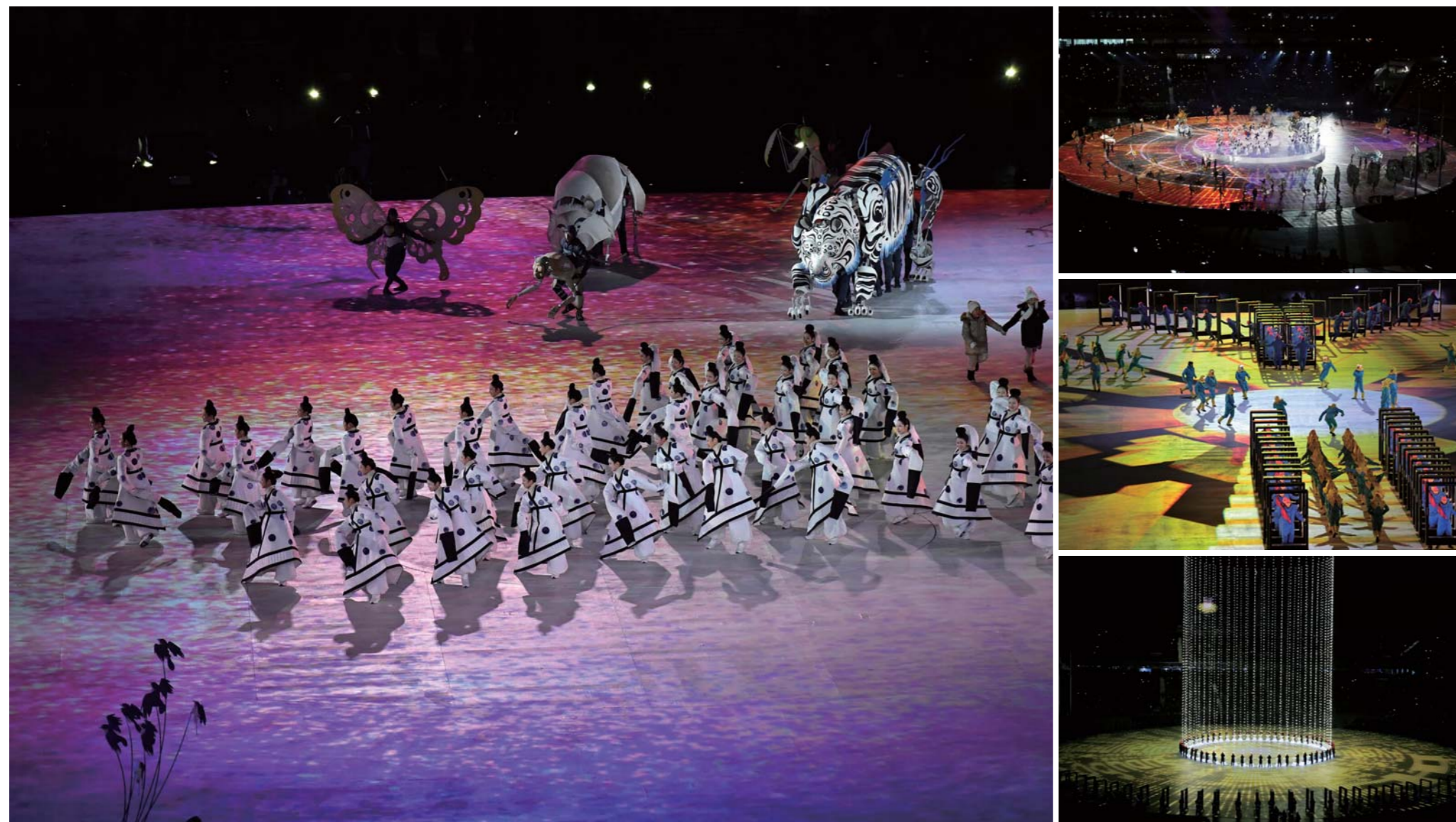
さまざまなシーンに対応

平昌オリンピックの五角形の形に沿ってSOLID SHINEレーザープロジェクターを設置し、5方向から様々な投写パターン映像演出を行うことで、運用が難しい使用環境の中でも映像が途切れるといった問題もなく、セレモニーの成功を導きました。



■ 平昌2018冬季オリンピック開会式

東洋の陰陽五行思想にちなみ、五角形に造られた平昌オリンピックスタジアムで、「平和への前進」というコンセプトのもと幕を開けた開会式。大会マスコットのモチーフでもあり東洋の守護神とされる白虎が見守る中、5人の子ども達が平和実現への答えを探し、冒険しながら未来へと歩いていくストーリーが展開されました。SOLID SHINEレーザープロジェクターPT-RZ31K/RQ32Kは、セレモニーの最後まで映像が途切れるといったトラブルなく、高輝度・高解像度でコンセプトに生命を与え、光の芸術で迫力ある映像演出を実現しました。



■ 平昌2018冬季オリンピック閉会式

17日間の熱戦に幕を閉じた25日の夜、閉会式では「未来の波 (THE NEXT WAVE)」をテーマに、今までの型を破り前進する挑戦心が伝えられました。選手団、関係者、ボランティア、観客がひとつになった最後の夜、プロジェクションマッピングや照明で彩られた平昌の舞台は盛大な花火を背景に、世界で一番美しい雪花となり輝きました。



■ 納入機器



3チップDLP方式®プロジェクター
PT-RQ32K



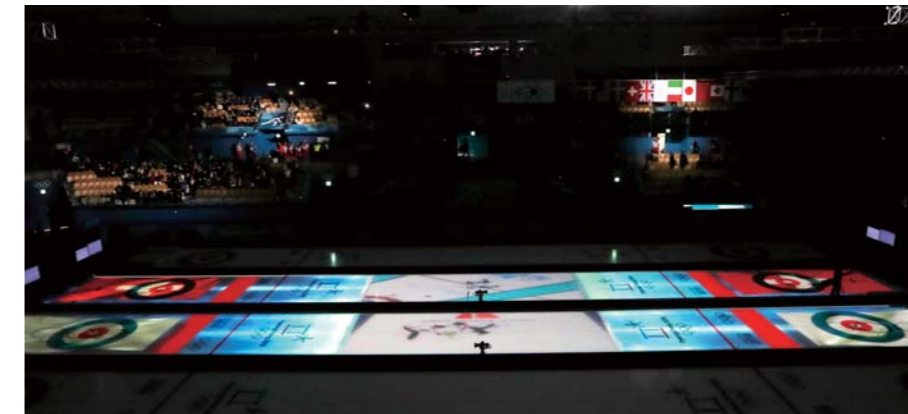
3チップDLP方式®プロジェクター
PT-RZ31K

競技会場を鮮やかに彩った プロジェクター

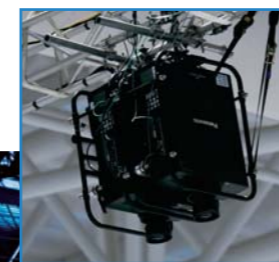
PROJECTORS AT COMPETITION VENUES

各種競技会場での映像投写に威力を発揮した、SOLID SHINEレーザー光源の高輝度プロジェクター。3チップDLP®方式による高い設置性と、高輝度・高コントラストにより、モノトーンからカラフルな映像まで、多彩な映像で氷上を鮮やかに演出し、競技観戦を盛り上げました。

4台のPT-RZ31Kを使用した江陵アイスアリーナのプロジェクションマッピング。



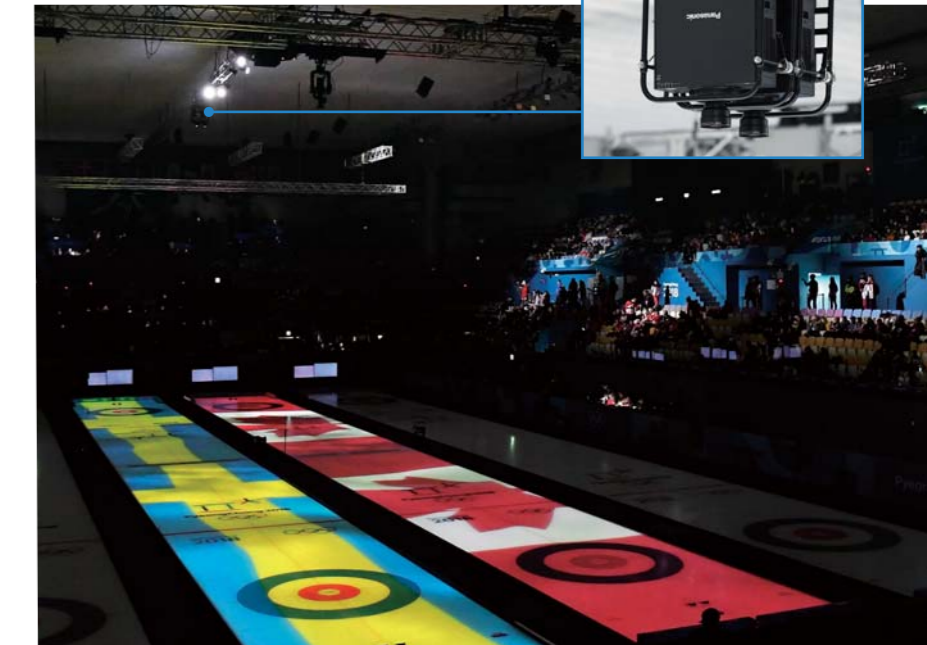
4灯式光学システムを採用したPT-DZ21K2が、江陵カーリングセンターの氷上を華々しい舞台へと一転させ観客を魅了しました。



20,000ルーメンの高輝度プロジェクター PT-DZ21K2を2台1組で使用。江陵スピードスケート競技場を色鮮やかに演出しました。



フレームと金具を組み合わせることでPT-DZ21K2を江陵カーリングセンターの天井付近3箇所を設置し、上部の離れた場所から鮮明な映像を投写。



■ 納入機器



3チップDLP方式®プロジェクター
PT-RZ31K



3チップDLP方式®プロジェクター
PT-DZ21K2



映像で伝える感動と興奮

PRO DISPLAYS AT COMPETITION VENUES

平昌2018冬季オリンピックの競技会場は、大会期間の平均気温がこれまでで最も低くなると予想されていました。パナソニックは、厳しい環境でも安定した運用が可能な屋外サイネージ用ディスプレイを多数納入。過酷な環境下で競技の様子や情報を表示し、運営を強力にサポートしました。

アルペンシアスキージャンプセンターで使用されたTH-47LFX60。



アルペンシアクロスカントリーセンターなどの競技場に納入された、屋外設置に最適な堅牢液晶ディスプレイ TH-47LFX60。



広い視野角のIPSパネルで視認性の高い情報を伝えるパナソニック製の業務用ディスプレイが、オリンピックスライディングセンターにも設置されていました。



フェニックススノー競技場に設置されたディスプレイで、迫力あるスピードで展開される競技を追う観客。

氷点下の環境で行われたアルペンスキーを色鮮やかに伝える、龍平アルペン競技場に設置されたTH-47LFX60。



■ 納入機器

屋外サイネージ液晶ディスプレイ
TH-47LFX60





アスリートの情熱を 高画質で捉える 放送・業務用映像システム

BROADCAST AND PROFESSIONAL VIDEO
SYSTEMS AT COMPETITION VENUES

パナソニックの業務用映像システムが記録システムとして使用されるのは、1992年のバルセロナオリンピック以降、平昌2018冬季オリンピックで13大会目。リオ2016オリンピックから大会映像記録機器として採用されている放送用カメラシステム「P2HD」シリーズのほか、多彩な演出を可能にする2MEライブスイッチャー(AV-HS6000)など、さまざまな放送機器を納入し、各競技会場や各国の放送局、IBC(国際放送センター)などでスピーディーなワークフローの実現に貢献しました。

アルペンシアスキージャンプセンターで使用されたカメラレコーダー AJ-PX5000。



円滑な放送中継を実現するために江陵カーリングセンターに設置された各種業務用映像システム。

江陵アイスアリーナで歴史的瞬間を捉えようと待ち構えるAJ-PX5000。ネットワーク時代の迅速な放送ニーズにも対応。



フェニックススノー競技場で直感的な操作を可能にする2MEライブスイッチャー。



■ 納入機器



メモリーカード・カメラレコーダー
AJ-PX5000



2MEライブスイッチャー
AV-HS6000



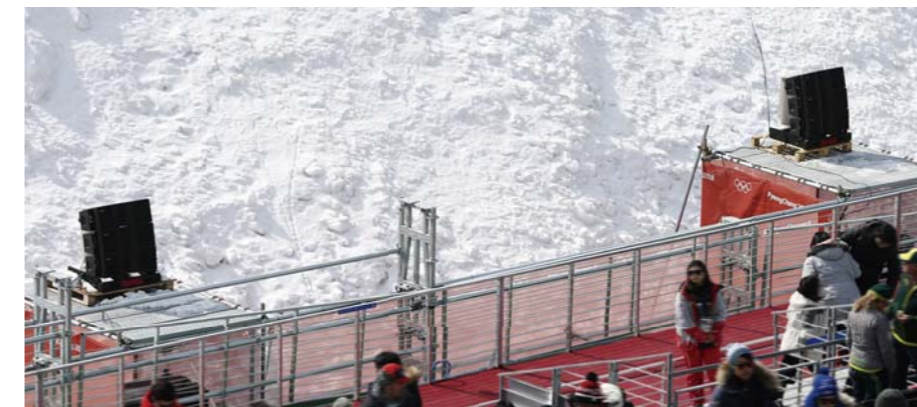
会場を迫力の サウンドで包む プロ用音響システム

PROFESSIONAL AUDIO SYSTEMS
AT COMPETITION VENUES

強風や低温といった屋外での厳しい使用環境における耐久性を追求して開発された、RAMSA(ラムサ)ブランドの音響システム。遠く離れていても近くにいても音量差なく選手や客席に音を届けます。今大会では10年ぶりにRAMSAラインアレイスピーカーがオリンピックに導入され、機能の進化とともにクリアさと迫力を増した音響を観客に提供。アルペンシアスキージャンプセンターやフェニックススノー競技場、龍平アルペン競技場、江陵オリンピックパークといった多くの会場で競技を盛り上げました。

国際オリンピック委員会のGames Technology & Energyでアソシエイト・ディレクターを務めるJohn Paul Giancarlo氏は、「最新のRAMSA機材が導入されているフェニックススノー競技場では、ハーフパイプ、スロープスタイル、エアリアルなどのあらゆるエクストリームスポーツが開催されています。これらのスポーツ観戦にはロックコンサートのようなエンターテインメント性が求められます。パナソニックのRAMSAの機材は思い出に残るような素晴らしい音と環境を実現しました」と感想を述べています。

フェニックススノー競技場で使用されたRAMSAスピーカー。



従来のスピーカーと比べて距離が離れても音が減衰しにくいRAMSAのラインアレイスピーカーが、クリアな高音質サウンドを競技場の隅々まで届けます。



江陵オリンピックパークの低温・強風の過酷な環境下に設置されたRAMSAラインアレイスピーカー。



アルペンシアスキージャンプセンターを迫力のサウンドで包むRAMSAスピーカー。

■ 納入機器



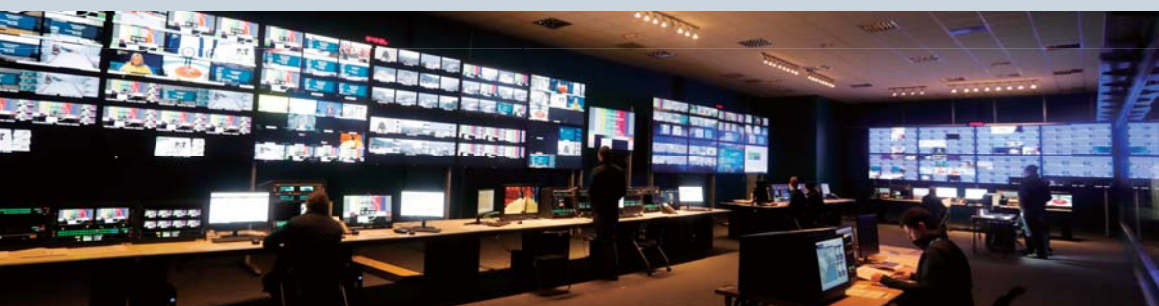
2ウェイスピーカー



ラインアレイスピーカー



サブウーハー



オペレーション施設

■ 国際放送センター INTERNATIONAL BROADCAST CENTRE (IBC)

パナソニックは、IBC内にオリンピック放送機構(OBS)と日本放送協会(NHK)が共同で設置する「8Kスーパーハイビジョンシアター」に、高輝度の4K+対応プロジェクター PT-RQ32Kを(予備機を含め)5台納入し、8Kでの上映をサポート。8Kのリアルな映像による新しい競技観戦スタイルを提供しました。



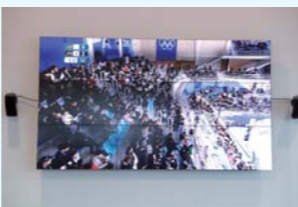
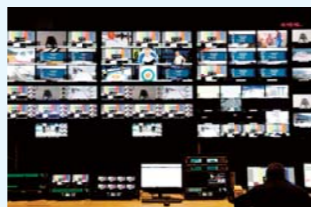
8Kシアター



サポート部隊が常駐



多数の映像機器で運用をサポート

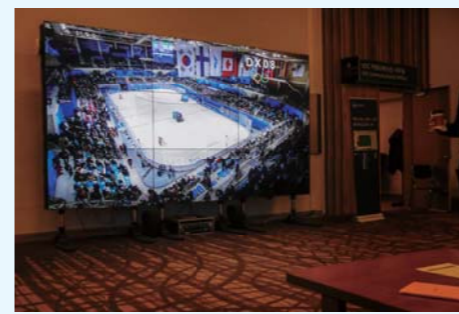


■ メインオペレーションセンター MAIN OPERATION CENTRE (MOC)

パナソニックのマルチスクリーン対応液晶ディスプレイTH-55VF1Hは、視認性の高いハイクオリティな画質と便利な機能を提供。4×11台のマルチ画面がシームレスでインパクトのある映像をお届けし、視野角による輝度・色変化を抑える高解像度IPS液晶パネル技術により、斜め方向から見ても鮮明な映像表示を実現しました。



■ メインプレスセンター MAIN PRESS CENTRE (MPC)



マルチスクリーン対応ディスプレイ TH-55LFV70 x 9台



4Kマルチパーバスカメラ AK-UB300

■ 選手村 OLYMPIC VILLAGE



報道取材用カメラレコーダー AJ-PX800G



PT-DZ13K + ET-D75LE95を2箇所に設置

その他施設

■ TOKYO 2020 JAPAN HOUSE

Tokyo 2020 JAPAN HOUSEではLF80シリーズのディスプレイを設置した展示コーナーを設け、東京2020大会や開催都市東京の魅力、日本の文化、日本食などを映像で紹介。また、超短焦点レンズ ET-D75LE95を搭載した3チップDLP®方式プロジェクター PT-DZ21K2を使って、ブース内で撮影した来館者のアバターを大画面に投写するなどして、一般の方々にもお楽しみいただきました。

東京2020組織委員会で事務総長を務める武藤敏郎氏は、「スポーツには世界と未来を変える力がある。東京の大会がもっともイノベティブで世界を変える、そういう大会にしていこうというビジョンがあります。そして何よりもオリンピック、パラリンピックを通じて新しい時代の変革の契機として世界に対してポジティブな変革をもたらすような大会にしたいと思っております。ぜひ世界中の方々に東京に来ていただいて、オリンピックを見ていただく。さらに日本の様々な文化や芸術に触れていただく、そういうチャンスにしたいと思っています」と抱負を語りました。

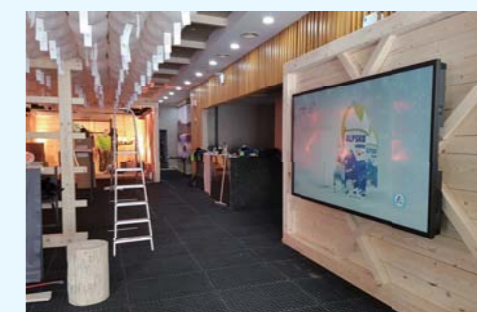


PT-DZ21K2 + ET-D75LE95を2箇所に設置



スタイリッシュなデザインで、プレゼンテーションに適したLF80シリーズ液晶ディスプレイ

■ スロベニアハウス SLOVENIA HOUSE



4K UHD大型液晶ディスプレイ TH-98LQ70 x 2台



SUPPORT FACILITIES

大会運営を支えるサポート施設

平昌 2018 で使用された映像機器 INSTALLED EQUIPMENT AT PYEONGCHANG 2018

3 チップ DLP® 方式プロジェクター(レーザーモデル)



PT-RQ32K



PT-RZ31K



PT-RZ12K



超短焦点レンズ



ET-D75LE90/D75LE95
* 3 チップ DLP® 方式プロジェクター対応

3 チップ DLP® 方式プロジェクター(ランプモデル)



PT-DZ21K2



PT-DZ13K



1 チップ DLP® 方式プロジェクター(ランプモデル)



PT-DZ680



スペースプレーヤー(スポットライト型プロジェクター)



PT-JW130



4K UHD 液晶ディスプレイ



TH-98LQ70



TH-70LF50 (生産完了)
[スタンダード]
* 後継機種 SF2H シリーズ



TH-55LF80/49LF80/42LF80
[スタンダード]



TH-55VF1H/55LFV70
[マルチスクリーン]



TH-47LFX60
[屋外サイネージ]

フルハイビジョン液晶ディスプレイ

P2 メモリーカード・カメラレコーダー



AJ-PX5000



AJ-PX800G



AJ-PX380



AG-HPX610



AU-EVA1

シネマカメラ

3 チップ DLP® 方式プロジェクター(ランプモデル)



PT-DZ21K2



PT-DZ13K



1 チップ DLP® 方式プロジェクター(ランプモデル)



PT-DZ680



スペースプレーヤー(スポットライト型プロジェクター)



PT-JW130



ライブスイッチャー



AV-HS6000



AV-HS450

P2 メモリーカード・ポータブルレコーダー



AG-HPD24

LCD モニター



BT-LH2170 (生産完了)

スピーカー



2 ウェイスピーカー



ラインアレイスピーカー



サブウーハー

平昌 2018 で採用された製品の一部のみを掲載しています。全ての納入機器は含まれておりません。